



14



12

## 祈り



15

12 75年の歳月をどのような思いで、迎えているのだろうか。13 役員から献花の白菊が手渡される。14 75年前の「あの日」を思い、静かに黙とうをささげる。15 亡き人を悼み合掌。16 例年の高校生に代わって司会進行を務めた渡辺節子さん。



16



13



18

18 いろいろな果物が供えられた祭壇に、献花の列が続く。



17

17 「叫魂」像の前に深々とこうべを垂れる。



7

6 新型コロナウイルス感染症対策として、参加者に検温を行う。7 鳴きやまないセミの音が降り注ぐ中での式典。



6



10



8



11

10 玖波6丁目の女性部「すみれ会」が折った千羽の鶴には、追悼の句が添えられた。11 親子で折る姿も見られた。



9

8 参加できなかった市内の小・中・高校生たちが、「叫魂」像にささげる折り鶴。9 児童・生徒たちの代わりに役員が折り鶴を献納。

## 8月6日 総合市民会館「叫魂」像前

広島に原子爆弾が投下されて75年。あの日、大竹町、小方村、玖波町から国民義勇隊として、多くの人が広島市内の建物疎開に動員され、およそ千人の人が、帰らぬ人となりました。

市原爆被爆者協会による38回目となる「原爆死没者追悼・平和祈念式典」は、新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小しての開催。例年は小・中・高校の児童・生徒らが列席して、吹奏楽演奏や「平和への誓い」の作文の朗読が行われますが、今回は自粛となりました。

降りしきるセミの鳴き声の中、この1年間に亡くなられた26柱の被爆者の名前が死没者名簿に書き加えられ、合わせて2113柱となった名簿が納められました。

4月に92歳で亡くなった父親の冥福を祈り、遺族代表献花をした中村里美さん（小方2）は、「非人道的な核兵器を世界から無くしてほしい」との思いを語ってくれました。

平和へのメッセージを込めた二階堂和美さんの歌、『伝える花』が流れる中、参加者の献花が続く式典でした。



1



2



4



3



5

1 市原爆被爆者協会の中原悦司会長は、式辞で死没者への追悼の言葉と、核廃絶を訴えた。2 「叫魂」像前の石碑に刻まれた言葉。3 参加者の平和の歌「青い空」の合唱。歌詞カードと数珠を持つ手には年輪が刻まれている。4 水を求めて死んでいた被爆者に手向けの献水。5 8時15分のサイレンが響く中、手を合わせる遺族代表の中村里美さん。

